

足羽山における陸貝の生息記録

有馬 達也

List of Land Mollusca in Mt. Asuwa, Fukui City, Fukui Prefecture

Tatsuya ARIMA

(要旨) 福井市足羽山における陸貝の生息状況について、過去の確認記録についてまとめるとともに、近年確認されている種について報告する。

キーワード：陸貝，足羽山

近年、山林の開発や圃場整備、管理放棄による林野の荒廃等によって、多くの陸産貝類（陸貝）がその数を減らし、絶滅の危機に瀕している。福井県内でも、県域絶滅3種を含む54種が県のレッドリストに選定されており（福井県安全環境部自然環境課編，2016）、この中にはかつて県内各地でごく普通に見られた種も存在する。

足羽山は、福井平野の中央に位置する標高116.5mの孤立丘陵である。周囲を市街地に囲まれていながら豊かな植生が残されており、市民の憩いの場となっていると同時に、多くの陸貝の生息地でもある。一方で、現在も駐車場整備等の開発が行われており、モウソウチク林の拡大による他の動植物の減少も懸念されている（中村・吉澤，2013）。

陸貝の保全のためには、最も基礎的な知見として陸貝相の現状を把握する必要がある。福井県は、県内の動植物などの分布状況を取りまとめた「みどりのデータバンク」の整備を行っており、県内の陸貝相についても情報が整備されている。この中で足羽山の陸貝についても断片的な情報は記されているが、足羽山の陸貝相についてまとめた報告はない。本稿では、足羽山の陸貝保全の基礎知見を得ることを目的として、文献、当館所蔵の標本データ及び近年の観察記録をまとめた。以下に結果を示す。

福井市自然史博物館には、足羽山で採集された陸貝として13種が収蔵されている。このうち12種は2003年以降の採集記録が存在するが、オナジマイマイは採集年が1951年となっており、それ以降は確認されていない。

福井県は、県内の自然環境を総合的に把握することを目的として、動植物などの分布状況を取りまとめた「みどりのデータバンク」整備のための調査を二度行っている。1980～1982年度に行われた第1回調査では、福井県内で生息が確認された陸産および淡水産貝類132種のうち、30種が足羽山（オカチョウジガイ、マルオカチョウジガイは西墓地公園）で確認されている

（福井県自然環境保全調査研究会両生類・爬虫類・陸産及び淡水産貝類部会編，1985）。足羽山で生息が確認された種は、いずれも陸産貝類である。1993～1997年度に行われた第2回調査では、第1回調査で確認された30種のうち13種が足羽山を含む2km四方メッシュにおいて確認されており、残り17種は確認できなかったとされている（福井県自然環境保全調査研究会両生類・爬虫類・陸産貝類部会編，1998）。

これらの記録を総合すると、福井県内で生息が確認されている陸貝26科127種（福井県安全環境部自然環境課編，2016）のうち33種が足羽山で確認されていることになる。このうち平成年間に確認されているのは20種、2000年以降に確認されているのが12種である。注目すべき点として、博物館に採集記録のあるオオクラヒメベッコウは、県の調査では嶺南地方でしか生息が確認されていない（福井県自然環境保全調査研究会両生類・爬虫類・陸産及び淡水産貝類部会編，1985；福井県自然環境保全調査研究会両生類・爬虫類・陸産貝類部会編，1998）。

2015年以降、足羽山に生息する陸貝について、視認による調査を継続的に行っている。その結果、カドバリニッポンマイマイ、コシダカコベソマイマイ、チャイロオトメマイマイ、ツルガマイマイの4種を確認することができた。いずれも2007年以降に標本が採集されている種であり、特にツルガマイマイは確認される頻度も高く、足羽山における生息数は少なくないと考えられる。しかし、ツルガマイマイは福井県のレッドリストにおいて急激に生息域を縮小させているとされ、新たに要注目に指定されている（福井県安全環境部自然環境課編，2016）。また、コシダカコベソマイマイも確認情報が減少しているとして要注目に指定されている。

今後、微小貝等についても調査を進めるとともに、陸貝の生息状況について継続的に確認していかなければならない。

引用文献

福井県安全環境部自然環境課編, 2016. 改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物. 福井県, 536p+41pls.
 福井県自然環境保全調査研究会両生類・爬虫類・陸産貝類部会編, 1998. 福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録. 福井県県民生活部自然保護課, 141p.
 福井県自然環境保全調査研究会両生類・爬虫類・陸産及び淡水産貝類部会編, 1985. 福井県の両生類・爬虫類・陸産及び淡水産貝類目録. 福井県, 163p.
 中村幸世・吉澤康暢, 2013. 足羽山に生息するモウソウチクのタケノコの成長速度. 福井市自然史博物館研究報告, (60), 45-54.

表1 足羽山での確認記録がある陸貝

種名	みどりのデータバンク 第1回調査(1985)	みどりのデータバンク 第2回調査(1998)	福井県レッドリスト (2016)	博物館の 最新確認記録
ミジンヤマタニシ <i>Nakadaella micron</i>	○			
ハリマムシオイガイ <i>Chamalycaeus japonicus</i>	○			
ヒダリマキゴマガイ <i>Palaina pusilla</i>	○			
ミジンマイマイ <i>Vallonia costata</i>	○			
ナミギセル <i>Stereophaedusa japonica</i>	○	○		2007年
ナミコギセル <i>Euphaedusa tau</i>	○			
ホソオカチョウジガイ <i>Allopeas pyrgula</i>	○			
マルオカチョウジガイ <i>Allopeas brevispira</i>	○(西墓地公園)			
オカチョウジガイ <i>Allopeas clavulinum kyotoense</i>	○(西墓地公園)			
ナメクジ <i>Meghimatium bilineatum</i>	○	○		2007年
ヤマナメクジ <i>Meghimatium fruhstorferi</i>				2007年
ヒメオカモノアラガイ <i>Neosuccinea horticola</i>	○	○		
カサキビガイ <i>Trochochlamys crenulata</i>	○	○		
ハリマキビガイ <i>Parakaliella harimensis</i>	○			
スジキビガイ <i>Parakaliella ruida</i>	○	○	要注目	
キビガイ <i>Gastrodontella stenogyra</i>	○			
ヒメベッコウガイ <i>Discoconulus sinapidium</i>	○			
マルシタラガイ <i>Parasitella reinhardti</i>	○		要注目	
ナミヒメベッコウ <i>Yamatochlamys vaga</i>	○			2003年
オオクラヒメベッコウ <i>Yamatochlamys lampra</i>				2003年
ウラジロベッコウ <i>Urazirochlamys doenitzii</i>	○	○		2007年
ヒメコハクガイ <i>Hawaiiia minuscula</i>	○	○		
コハクガイ <i>Zonitoides arboreus</i>	○	○		
チャコウラナメクジ <i>Limax marginatus</i>	○			2007年
コシダカコベソマイマイ <i>Satsuma fusca</i>			要注目	2015年
ニッポンマイマイ <i>Satsuma japonica</i>	○			
カドバリニッポンマイマイ <i>Satsuma japonica carinata</i>	○	○		2016年
オオケマイマイ <i>Aegista vulgivaga</i>	○	○		
オウミケマイマイ <i>Aegista omiensis</i>	○		県域絶滅危惧Ⅱ類	2007年
チャイロオトメマイマイ <i>Trishoplita mesogonia</i>	○			2016年
オトメマイマイ <i>Trishoplita goodwini</i>	○	○		
ツルガマイマイ <i>Euhadra latispira tsurugensis</i>	○	○	要注目	2016年
オナジマイマイ <i>Bradybaena similaris</i>	○	○		1951年